

サトリの  
ココロ

多くの人が孤立感、生きにくさを感じる今、  
仏教に興味を持つ人が増えています。  
僧侶に聞く、弱い自分と向き合う方法——

日蓮宗妙長寺住職  
山田妙真さん

第56回

私は大学卒業後、小学校教員として勤めてきました。教員生活も順調だったころ、住職であった父が胃がんと判明。それまでは長期の休みも家族旅行に出かけたりして実家にはあまり帰らなかつたのですが、父の病気をきっかけに実家に頻繁に寄るようになりました。私はお寺の娘に生まれ、2人姉妹の長女。大学に入るまでは、将来はお坊さんと結婚して、実家のお寺を継いでもらえれば、と漠然と考えていました。でも大学在学中に夫と出会い、結婚してお寺を出てしまった。妹も嫁ぎ、両親は実

### 16年間の教員生活を辞し 住職としての新たな道へ

の子にお寺を継いでもらうことを諦めざるを得なくなっていました。父の病気がわかり、まず私の頭に浮かんだのは「なぜ父ががんになったの?」ということ。でもあるとき、「それは私がお寺を継ぐためなのかも」と、直感のようなものが頭のてっぺんから入ってきたのです。父は手術を受けましたが、余命3年との告知。私はすぐに「その3年で住職資格が取れるか」と考えました。いろいろ調べると何とかなりそうだとわかり、私は迷わず出家の道を選びました。

夫に離婚覚悟で「教員を辞めて出家する」と告げたところ、夫は「そう言うと思った」。当時小学生だった息子は「これでママに授業参観や運動会に来てもらえら」と無邪気に喜び、娘も「ママの人生だからママの好きなようにすればいいよ」と応援してくれました。もちろん実家の母も大喜び。ただ唯一、反対したのが父でした。理由は「苦労するから」。自身の体験から、娘を心配してのことでした。

私が子どものころ、お寺の収入だけでは生活が苦しく、父は日雇いの労働に出ることもありましたが、教育費を捻出するのでも大変だとわかっていたので、高校卒業後は国立大学へ。経済的に自立したいという思いが強く、教員を目指しました。ただ、私は貧しかったことは

の子にお寺を継いでもらうことを諦めざるを得なくなっていました。父の病気がわかり、まず私の頭に浮かんだのは「なぜ父ががんになったの?」ということ。でもあるとき、「それは私がお寺を継ぐためなのかも」と、直感のようなものが頭のてっぺんから入ってきたのです。父は手術を受けましたが、余命3年との告知。私はすぐに「その3年で住職資格が取れるか」と考えました。いろいろ調べると何とかなりそうだとわかり、私は迷わず出家の道を選びました。

夫に離婚覚悟で「教員を辞めて出家する」と告げたところ、夫は「そう言うと思った」。当時小学生だった息子は「これでママに授業参観や運動会に来てもらえら」と無邪気に喜び、娘も「ママの人生だからママの好きなようにすればいいよ」と応援してくれました。もちろん実家の母も大喜び。ただ唯一、反対したのが父でした。理由は「苦労するから」。自身の体験から、娘を心配してのことでした。

私が子どものころ、お寺の収入だけでは生活が苦しく、父は日雇いの労働に出ることもありましたが、教育費を捻出するのでも大変だとわかっていたので、高校卒業後は国立大学へ。経済的に自立したいという思いが強く、教員を目指しました。ただ、私は貧しかったことは

の子にお寺を継いでもらうことを諦めざるを得なくなっていました。父の病気がわかり、まず私の頭に浮かんだのは「なぜ父ががんになったの?」ということ。でもあるとき、「それは私がお寺を継ぐためなのかも」と、直感のようなものが頭のてっぺんから入ってきたのです。父は手術を受けましたが、余命3年との告知。私はすぐに「その3年で住職資格が取れるか」と考えました。いろいろ調べると何とかなりそうだとわかり、私は迷わず出家の道を選びました。

夫に離婚覚悟で「教員を辞めて出家する」と告げたところ、夫は「そう言うと思った」。当時小学生だった息子は「これでママに授業参観や運動会に来てもらえら」と無邪気に喜び、娘も「ママの人生だからママの好きなようにすればいいよ」と応援してくれました。もちろん実家の母も大喜び。ただ唯一、反対したのが父でした。理由は「苦労するから」。自身の体験から、娘を心配してのことでした。

私が子どものころ、お寺の収入だけでは生活が苦しく、父は日雇いの労働に出ることもありましたが、教育費を捻出するのでも大変だとわかっていたので、高校卒業後は国立大学へ。経済的に自立したいという思いが強く、教員を目指しました。ただ、私は貧しかったことは

の子にお寺を継いでもらうことを諦めざるを得なくなっていました。父の病気がわかり、まず私の頭に浮かんだのは「なぜ父ががんになったの?」ということ。でもあるとき、「それは私がお寺を継ぐためなのかも」と、直感のようなものが頭のてっぺんから入ってきたのです。父は手術を受けましたが、余命3年との告知。私はすぐに「その3年で住職資格が取れるか」と考えました。いろいろ調べると何とかなりそうだとわかり、私は迷わず出家の道を選びました。

夫に離婚覚悟で「教員を辞めて出家する」と告げたところ、夫は「そう言うと思った」。当時小学生だった息子は「これでママに授業参観や運動会に来てもらえら」と無邪気に喜び、娘も「ママの人生だからママの好きなようにすればいいよ」と応援してくれました。もちろん実家の母も大喜び。ただ唯一、反対したのが父でした。理由は「苦労するから」。自身の体験から、娘を心配してのことでした。

辛いこと、大変なことも  
がんばれば必ず乗り越えられます

やまだ・みょうしん 1955年生まれ、千葉県出身。県立木更津東高校卒業後、千葉大学教育学部に進学。在学中に山田真さんと出会い、結婚。大学卒業後の1979年から小学校教員として16年間勤務する。先代住職であった父の大病をきっかけに、1994年に得度。1995年に教員を退職、1996年より住職に。全国日蓮宗女性教師の会副会長、人権推進委員会委員も務める。



1277年に創建され、室町期に浦田の地(現在の千葉県君津市浦田)へ移された妙長寺。子育て祈願の寺ともいわれる。

マイナスだけではなかつたと思っ  
ています。お金があつたら、あんな  
に勉強しなかつたかもしれない。  
辛いこと、大変なこともがんばれば  
乗り越えられると知ることができ  
ましたからです。

私は再度、夫と連れ立って父を  
説得に行き、弟子入りを願いまし  
た。そして、それから約2年半後、  
父が死去。私は教員から住職へと  
転身したのです。

### 教員生活での経験が 僧侶としての今に生きる

私はお坊さんになるのが本来だ  
つたのだと、今は思います。教員生  
活は寄り道だったのかも知れない。  
でも、教員時代の経験にはひとつ  
も無駄はありません。どれも僧侶  
としての今に役立っています。

乗り越えられない試練は与えら  
れない、といえます。大変なとき  
もありますが、がんばれば乗り越  
えられるはず。そしてそこには必  
ず見守ってくれる人がいます。自  
分が努力すれば、助けてくれる人  
(変化の人)が現れるのです。